

## 子宮筋腫ト子宮癌腫トノ統計的比較第一回調査報告

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2017-10-04 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: メールアドレス: 所属:
URL	<a href="http://hdl.handle.net/2297/38624">http://hdl.handle.net/2297/38624</a>

# 十全會雜誌

（第參拾五號）

原著及實驗

## ○子宮筋腫ト子宮癌腫トノ統計的比較第一回調査報告

特別會員 小川勝 陳共述  
特別會員 八田智証  
(澤金)

此編ハ本年七月十八日石川縣會議事堂ニ開會セル第五回北陸醫會ニ於テ小川教授ノ報告セラレバキモノヲ教授不豫ノ爲助手八田氏ノ代テ報告セラレタルモノナリ今其筆録ニ就テ更ニ增訂ヲ行ハレタルモノヲ乞ヒ愛ニ掲ケルコト、ハナシヌ  
(編者識)

私ノ演題ハ小川教授共述ノ子宮筋腫ト子宮癌腫トノ統計的比較第一回調査報告ト云フノデアリマス、全体此子宮筋腫及子宮癌腫ハ女子トハ甚タ緊要ナル關係ヲ有スルモノニシテ、通常高齡婦人死亡者百人中ニ於テ其三分ノ一以上ハ子宮筋腫ヲ有スト云ヒ、又癌腫ニテ死亡セル婦人ノ三分ノ一ハ子宮癌腫也ト云フコトデアル故ニ、今此兩病ト婦人トニ付テ統計的調査ヲ試ムルモ強チ亦無用ノ業ニ非ズト信シマス、

其調査事項トシテハ此兩病患者ト其職業、月經初潮、結婚、初産、終産、分娩回数及産兒、發病年齡、初産ト終産間ノ年限、終産ト發病間ノ年限、並ニ發病初期症候ノ十ヶ條ニ就テノ關係デアリマス、今此報告ヲナスニ當リ其順

序トシテ豫メ前以テ御承知置ヲ願ヒタキ數個ノ御斷ヲ申上ケ、次ニ本題ニ移リ此兩病ニ就テ異レル比較上ノ要點ヲ述ベ様ト思ヒマス、其數個條ノ御斷ト申シマスノハ、

- 一 本報告ノ數ハ各百例ナリ是レ報告ノ便宜上撰ヒタルモノナリ
- 二 本報告ノ材料ハ金澤病院婦人科產科患者經過錄ニ依リ明治三十三年一月ヨリ三十七年六月二十日ニ至ルマデ及三十二年度ノ一部ヨリ可成の記事ノ明確ナルモノヲ採リ茲ニ各其百例ヲ得タルモノナリ
- 三 本報告ニ於ケル各百例ハ小川婦人科產科醫長診察ノ下子宮筋腫及子宮癌腫ト診斷セラレタルモノニシテ素ヨリ一々鏡驗的確定ヲ經タルモノニアラズ
- 四 本報告ニ於ケル筋腫及癌腫ハ悉ク子宮ヨリ發生シタルモノノミニ限ルモ殆ント全ク子宮體部ノ筋腫及子宮腔部、頸部ノ癌腫ナリ
- 五 本材料ヲ採リタル患者經過錄ハ前往後來屢新陳代謝スル醫員ニヨリテ記載セラレタルモノナルヲ以テ項目ヲ分テル或一定ノ紙片ヲ用フルモ其既往症ノ粗密簡細頗ル不足從テ職業上無職或ハ不明ノ多キ或ハ出産兒ノ男女性不明了ノ点多キ等ハ實ニ遺憾トスル所ナリ
- 六 本報告ニ於ケル初産婦トハ我科ノ診療ヲ乞ハンカ爲ニ來レル時ニ於テ單ニ其分娩一回(第一回不妊ト謂ヒ得ベキカ)ニ止ル者ヲ云ヒ經産婦トハ二回以上分娩ヲ營ミタル者ヲ云フ
- 七 未産ト不妊、既産ト既妊トハ其間特殊ノ意義ヲ有スルモ本報告ニ於テハ共ニ同一意味ノ下ニ暫ク之ヲ使用セリ
- 八 本報告ニ於ケル發病年齡トハ病機發生時ヲサスモノニ非ルハ勿論ニシテ主トシテ診療ヲ乞ハンガ爲ニ來ル所

ノ患婦ニ就テ既往ニ於ケル自覺的症狀(或ハ時トシテ他覺的)ノ初發年齡ヲ指セルモノナリ

九 本報告中例者一十年、十一二十年、二十一三十年等ノ如ク記スモノハ是レ毎十年代ニ亘ル統計數ヲ示スモノニシテ詳言スレハ一年ヨリ十年ニ至ルマデ、十一年ヨリ二十年ニ至ルマデ、二十一年ヨリ三十年ニ至ルマデ等ノ如ク其間マタ之ガ年齡ハ重復スルモノアルヲ見ザルナリ

十 本報告ニ於ケル凡テノ年齡ハ皆所謂數<sup>〇</sup>年<sup>〇</sup>ニシテ舊曆ヲ新曆ニ且ツ生レ月ニ從テ茲ニ何年何ヶ月等ノ如ク改算シタルモノニハ非ルナリ

次ニ本題ニ移リマスガ、各條項ニ就テハ其概畧ヲ述フルニ止メマスルカラ、可成別表ニ付テ兩病ノ關係ヲ御熟覽ナサツテ説明ノ足ラザル所ヲ御補ヒ下サランコトヲ切ニ希望致シマス、

### 第一 職業

職業上ノ關係ニ付テハ第一表ニ於テ示ス如ク兩病各百例中、子宮筋腫ニ於テハ農三十三人、無職及不明十人、娼妓及娼妓志望者六人、官吏四人、貸坐敷等五各三人、辯護士等五各二人、賣藥等二十二各一人ニシテ、子宮癌腫ニ於テハ農三十六人、無職及不明九人、吳服等六各三人、醫士等十二各二人、炭屋等十三各一人デアリ從テ其間特殊ノ差異ナキガ如クデアリマスガ、然シ從來多數ノ人ニ依テ稱道セラレタル如ク私共モ亦臨床上ノ實驗ニ於テ比較的上級ノ者ニ於テ多ク筋腫ヲ見比較的下級ノ者ニ於テ多ク癌腫ヲ見ル様ニ思ヒマス、即チ其日常ニ於ケル生計上ノ狀態ハ多少之ニ關係ヲ有スルカ如キ傾向アルヲ認メマス、

因云醫會席上、山田學士ニハ第一表ニ就テ、氏ガ病院患者經過錄ニ比シテ無職及不明者ハ比較的多數ナリト云ハレ、又農ニ就テハ其勞役ニ從フ者ト否ラザル者トノ區別ヲ夙ニ立テツ、アル故、今後斯ル統計ハ互ニ同一方針ノ

下ニ於テ各別ニ調査センコトヲ望ム旨申サレタガ至極最ナルコトト信シマス、而モ唯遺憾ニ思ヒマスルノハ我科ニ於テハ屢交送スル幾多ノ醫員ニ由テ此等ノ記載事項ノ整然タル一致ヲ見ルハ頗ル困難デアルコトデアリマス、然シ將來ハ可成此方針ヲ踏ミテ歩ヲ進メ學士ノ意ヲ空シクセザランコトヲ期シ様ト思ヒマス、

## 第二 初經

第二表ニ於テ示ス如ク兩病患者ニ就テノ其月經初潮年齡デアリマス、筋腫ニテハ百人ノ平均年齡ハ十六歲強ニシテ其中最早ク潮來シタル者ハ十三歲、最遲キ者ハ二十二歲デアリ、又癌腫ニテハ百人中初潮年齡ノ不明ナル者三ヲ除キ、九十七人ノ平均年齡ハ十六歲弱ニシテ最早者ハ十四歲最遲者ハ二十歲デアリマス、

更ニ之ヲ市町村ニ區別スルニ筋腫ニテハ市三十九人ノ平均年齡十六歲強、町二十二ニテ十六歲弱、村三十九人ニテ十七歲弱、又癌腫ニテハ市三十人十六歲弱、町二十四人十六歲弱、村四十三人十六歲強デアリマス、

之ハ初ニ御斷致シタル如ク單ニ數ヘ年デアリマスガ、從來本邦ニテ報告セラレタル二三ノ統計ナル醫科大學ノ十四歲八ヶ月、柳氏ノ同シク十四歲八ヶ月、緒方氏ノ十四歲九ヶ月、山田氏ノ十四歲七ヶ月、楠田氏ノ同シク十四歲七ヶ月、我科ノ十四歲八二六月(未タ取調中ニテ報告セザルモノナリ)等ニヨリ之ヲ見レバ、通常日本婦人ノ月經初潮ハ十四歲七ヶ月ヨリ十四歲九ヶ月ノ間ニ在ルコト、思ヒマス、故ニ今之ヲ比較對照スルニ其間餘リ大差ナキカト存シマス、即チ何年何ヶ月ノ如ク年月ニ從テ改算ヲ施シタナラバ兩者ハ相近キコト、思フノデアリマス、

## 第三 結婚

之ハ兩病患者ニ於ケル結婚平均年齡及其數ヲ示シタモノデアリマス、

筋腫ニテハ未婚者十一人既婚者八十九人ニシテ、八十九人ノ平均年齡十八歲強、其中最早者十四歲最遲者二十九歲

デアリマス、又癩腫ニテハ百人中未婚者二人既婚者九十八人ニシテ、其中結婚年齢不明一ヲ除キ九十七人ノ平均年齢ハ十八歳弱ニシテ最早者十四歳最遲者三十二歳デアリマス、尙之ヲ市町村ニ區別スルニ、筋腫ニテハ市三十一人十九歳弱、町二十人十八歳弱、村三十八人十八歳強ニシテ、癩腫ニテハ市三十人、町二十六人、村四十一人各皆十八歳弱デアリマス、此結婚平均年齢ハ山田氏ノ十六歳三ヶ月我科ノ十六歳五ヶ月(尙取調中ニ屬ス)ニ比較シテ前同様餘リ大差ナキコトト思ヒマス、

ソコデ此未婚者ト既婚者トニ就テハ表ニ於テ示ス如ク、筋腫ニテハ未婚十一%既婚八十九%ニシテ既婚者ハ未婚者ヨリモ八倍多ク、又癩腫ニテハ未婚僅ニ二%既婚九十八%ニシテ既婚者ハ未婚者ヨリモ四十九倍多クアリマス、殊ニ癩腫ニ於テハ筋腫ニ比シテ未婚者ハ漸ク其五分ノ一ニ過キマセヌ、即チ兩病共ニ未婚者ヨリモ既婚者ニ於テ多ク發生スルコトヲ認メラルコトガ出來マス、生スルコトヲ顯ハスノミナラズ、癩腫ハ一層筋腫ヨリモ既婚者ニ於テ多ク發生スルコトヲ認メラルコトガ出來マス、此事ニ就テハ泰西ニ於テ既ニ報告セラレタル兩三氏ノ統計ヲ舉ケマスルニ、

筋腫ニ就テハSchneider氏ハ七百九十二人中未婚百七十八人即チ二十二、五%既婚六百十四人即チ七十七、五%其比一ニ對スル三、五ナリト云ヒ、Pe'anny氏ハ八百人中未婚七十二人即チ二十%既婚三百二十五人即チ八十%ナリト云ヒ、Michel氏ハ百六十人中未婚者三十三人ナリシコトヲ報シ、Beigel氏ハ百四十六人中既婚者八十六人ナリシコトヲ報シテ居リマス、又Winkel氏ハ五百五十五人中未婚(且ツ未タ分娩セザル者)百四十人即チ二十四、二%既婚四百十五人即チ七十五、八%ニシテ其比三ニ對スル九ナルニ、Stel'senニテハ一汎婦人ニ就テ其未婚ト結婚トノ比ハ七、三ニ對スル九デアアル、故ニ子宮筋腫ノ形成的素因ハ既婚者ニ於テハ未婚者ニ比シテ少クトモ二倍多ク之ヲ有スルモノデアルト云ツテ居リマス、

Gusserow 氏ニ據ンバ氏並ニ Schröder, Hewitt, Marion Sims, Moore, Maden, Engelmann 氏等ノ合計數九百五十九人中未婚ハ二百八十七人ニシテ既婚ハ六百七十二人ナリシコトヲ報告シ、又英ノ Routh 氏ハ三百一人ニ就テ既婚者二百四十一人即チ八十%ナリト云ヒ、尙同氏ノ他ノ報告ニヨレバ三十五年乃至四十年ノ間ニ於テ二十七人ノ筋腫患者中二十二ハ既婚者ニシテ五ハ未婚者ナリキ即チ此年齡期ニ於テハ既婚者ハ未婚者ヨリモ四、四倍丈多シト云ツテ居リマス、

今以上諸氏ノ統計ニ於テ%數ヲ示サシムモノ、又ハ未婚或ハ既婚ノ一方ノミヲ掲ケ他ヲ顯ハサザルモノニ就テ、便宜上改算ヲ施シ比較對照スレバ實ニ左ノ通デアル、

	未婚	既婚	患者總數
Schröder	178(22.5%)	614(77.5%)	792
Reamy	72(20.%)	325(80.%)	800
Michel	33(20.6%)	127(79.3%)	160
Beigel	60(41.0%)	86(58.9%)	146
Winckel	140(24.2%)	415(75.8%)	555
Gusserow — Engelmann.	287(30.%)	672(70.%)	959
Routh	60(20.%)	241(80.%)	301
Ogawa	11(11.%)	89(89.%)	100

次ニ癌腫ニ就テハ不幸ニシテ多クノ報告ニ接シマセヌガ、Winckel 氏ニ據ンバ其經驗上子宮癌腫ニ罹ル婦人ノ最大

多數ハ結婚セル者ニシテ、氏ガ患者中結婚セザル者ハ僅ニ一、七%ニ過キズ、而モ其一、七%ノ患婦ノ $\frac{2}{3}$ ハ實ニ亦分婉セル者デアツタト云フコトデアリマス、又 *Chesley* 氏ハ子宮癌腫ニテ死亡セル婦人千人中未婚二百二十九人既婚七百七十一人(其内寡婦二百六十八人)ナリシコトヲ報告シテ居リマス、

我等ノ調査數ハ百例ニ過キザルモ其未婚二%既婚九十八%ナルヲ以テ見レバ *Chesley* 氏ノ例ニハ比スベカラザルモ、*Winkel* 氏ノモノニ比スレバ其未婚者ノ%數ハ其間相去ル遠カラザルコトカト思ハレマス、即チ結婚シタル者ハ未タ其爲ザル者ニ比シテ幾倍多ク子宮癌腫ヲ患フル者ナルコトハ爭フ可ラザル事實デアリマス、

茲ニ注意ヲ要スルハ泰西諸邦ニ於テハ其結婚ノ困難ナルトテモ日本ノ比デハアリマセヌ、從テ未婚者ノ多キ亦其處デアラウト思ヒマス、故ニ之ガ比較對照ニ就キマシテハ豫メ是心ヲ以テ御覽下サラシコトヲ申添致シテ置キマス、

#### 第四 初産

之ハ兩病患者ニ於ケル未産婦ト既産婦トノ數、並ニ既産婦ニ就テハ其初産ニ止マルト二回以上分婉セル經産ナルトヲ間ハス、凡テ初期分婉時即チ第一回分婉時平均年齡ヲ調べタルモノデアリマス、

先ツ筋腫ニ就テハ總數百人中未産婦四十八人、既産婦五十二人其平均年齡二十一歲弱ニシテ最早者十六歲最遲者三十四歲デアリマス、既産婦中十八人ハ單ニ第一回分婉ノミニ止レル初産ノモノニシテ平均年齡二十一歲強最早者十八歲最遲者三十四歲デアリ、三十四人ハ二回以上分婉セル經産婦ニシテ其初期分婉平均年齡ハ二十歲最早者十六歲最遲者二十七歲デアリマス、若シ之ヲ市町村ニ區別スレバ初産婦ニ於テハ市八人二十歲半、町五人二十三歲弱、村五人二十二歲弱、經産婦ニ於テハ市九人十九歲、町五人二十歲弱、村二十人二十一歲弱トナリ、更ニ分婉セル兒ノ男女性ニ就テ區別スレバ初産婦ニテハ男兒十人二十一歲半、女兒八人二十一歲強、經産婦ニテハ男兒十六人十九歲



半、女兒六人二十歲弱、性不明二十一歲弱トナリマス、

次ニ癌腫ニ就テハ總數百人中未產婦十人既產婦九十人其平均年齡二十歲強ニシテ最早者十七歲最遲者三十三歲デア  
リマス、即チ癌腫ノ平均年齡二十歲強ハ筋腫ノ二十一歲弱ト畧ホ其期ヲ一ニシテ居リマス、又既產婦九十人ニ於テハ  
初產婦八人二十一歲弱、最早十七歲最遲二十九歲ニシテ、經產婦八十二人二十歲強、最早十七歲最遲三十三歲デア  
リマス、又市町村ニ從ヘバ初產婦ニテハ市四人二十一歲半、村四人二十歲強、經產婦ニテハ市二十二二人二十歲弱、  
町二十四人二十歲強、村三十六人二十一歲弱トナリ、男女兒性ニヨレバ初產婦ニテハ男兒五人二十二歲弱、女兒三  
人十九歲強、經產婦ニテハ男兒三十四人二十歲強、女兒十八人二十一歲弱、性不明三十人二十一歲弱トナリマス、  
尙兩病ニ就テ之レガ市町村及男女兒各合計數ニ於ケル平均年齡ハ一々申上ケ致シ兼チマスカラ表ニ就テ御覽ヲ願ヒ  
マス、

以上述タル如ク兩病ニ於ケル初期分娩平均年齡ニハ特殊ノ差異ナキモ、唯深クコ、ニ意ヲ留ムベキハ筋腫百人中未  
產婦四十八人即チ殆ント其半數ニ及ベルニ反シテ、癌腫百人中未產婦僅ニ十人ニ過キザルコトニシテ、筋腫ニ於テ  
ハ癌腫ニ比シテ未產婦約五倍ノ多キニ達シテ居リマス、換言スレバ分娩ヲ經過シタル者ニ於テ多ク癌腫ヲ認め、比較  
的分娩セザル者ニ於テ多ク筋腫ヲ認メルコトガ出來ル様ニ思ヒマス是レ Winkkel 氏ガ Schröder 氏ニ左胆セラレタ  
ルガ如ク不妊ナルモノハ筋腫ヲ誘發スルモノニ非ズシテ却テ子宮筋腫ノ結果トシテ屢不妊症ヲ來スモノナルニ因リ  
マス、此既婚婦ニ於ケル筋腫患者ノ不妊ト既妊トノ關係ニ就テ泰西ノ一半ヲ畧說シマスレバ、West 氏ハ既婚者四十  
三人中不妊七人既妊三十六人ヲ報シ、Röhrig 氏ハ百六人中不妊三十一人既妊七十五人ヲ報シ、Beigel 氏ハ八十六人  
中不妊二十一人、Mühntock 氏ハ二十一人中不妊十人、Michels 氏ハ百二十七人中不妊二十六人、Winkkel 氏ハ四十

六人中既妊三十七人、Sisserott 氏ハ六十二人中皆悉ク既妊ナリシコトヲ報セシニ係ラズ獨リ Seanzoni 氏ハ六十九人中不妊三十五人即チ却テ既妊者ヨリモヨリ多キコトヲ報告シテ居リマス、  
 尙又 Winkel 氏ハ四百十五ノ既婚婦ニ就テ不妊百三十四人即チ二十四、三%既妊二百八十一人即チ五十、五%ナリ  
 (述者ニ此%數ハ 不妊134 = 32.2%既妊281 = 67.7ノ誤ニアラザル)ト云ヒ、Schroder 氏ハ六百四人ニ就テ不妊二百四人即チ三十三、七%、既妊四百人即チ六十六、三%ナリト云ヒ、其他不妊者ニ就テハ Grusevow 氏ハ二十七、%  
 Schmacher 氏ハ二十一、% Senger 氏ハ二十五乃至三十、%ナリト云ツテ居リマス、  
 今筋腫患者ニ於ケル結婚條下ニ於テ爲セシ如ク、此等諸氏ノ報告ニ就テ改算對照スルニ、

	不妊	既妊	既婚婦總計
West	7(16.2%)	36(83.7%)	43
Rohrig	31(29.2%)	75(70.7%)	106
Beigel	21(24.4%)	65(75.5%)	86
Mehntock	10(47.6%)	11(52.3%)	21
Michel	26(20.4%)	101(79.5%)	127
Winkel	9(19.5%)	37(80.4%)	46
Sisserott	0	62(100.%)	62
Seanzoni	35(50.7%)	34(49.2%)	69
Winkel	134(24.3%)	281(51.5%)	415

Schröder	204(33.7)	400(66.3%)	604
Ogawa	48(48.9%)	52(52.9%)	100
又Gusserow	27%		
Schnacher	21.9%		
Senger	25.1—30.9%		

次ニ癌腫患者ノ不妊ト既妊トノ關係ニ就テ一二ノ報告ヲ擧クレバ Hofmeier 氏ハ八百十二ノ既婚者中不妊三十九人ヲ報シ、Funk 氏ハ九百二十五人不妊六十九人ヲ報シ、Gusserow 並ニ Tanner, West, Scanzoni Seyfert, Beigel, Schröder, Winckel 諸氏ニ據レバ千五百四十人中不妊僅ニ百廿一人ニ過キマセヌ、尙 Winckel 氏ハ一、七%ノ不妊者、山田氏ハ四十人中五ノ不妊者ヲ算シラレタ、即チ

	不 妊	既 妊	既婚總計
Hofmeier	39(4.8%)	776(95.2%)	812
Funk	69(7.5%)	856(92.5%)	925
Gusserow— Winckel	121(7.8%)	1419(92.1%)	1540
Yamada	5(12.5%)	35(87.5%)	40
Ogawa	10(10.0%)	90(90.0%)	100
又Winckel	1.7%		

デアル、是ニ由テ觀レバ子宮筋腫ニ於テモ殊ニ亦癌腫ニ於テモ既産婦ニ於テ多ク發生スルハ諸家ノ報告皆一致スル

所デアリマス、

第五 終産

第五表ハ兩病患者ニ於ケル最終分娩時平均年齢ヲ示シタモノデアリマス、表中初産トアルハ單ニ一回ノ分娩ヲ營ミタル后不妊トナレル者ヲ指スモノニシテ此等ノ者ニ於テハ第一回分娩即チ最終ノ分娩デアリマス、從テマダ表中ヘ之ヲ入レタリト雖、其平均年齢ニ就テハ先頃既ニ申述ベタル通ナルニヨリ前表ヲ御参照アラシコヲ希ヒマス、

筋腫ニ就テハ既産婦總數五十二人ノ終産平均年齢ハ二十六歳強ニシテ最早十八歳最遲三十八歳ナルモ、其中初産十八人ヲ除キ、少ナクトモ二回以上分娩ヲ營メル經産婦三十四人ノ終産平均年齢ハ二十九歳弱ニシテ最早十九歳最遲三十八歳デアリマス、

之ヲ市町村ニ區別スレバ既産婦ニ於テハ市十七人二十六歳弱、町十人二十五歳強、村二十五人二十七歳弱ニシテ、單ニ經産婦ノミニ於テハ市九人三十歳強、町五人二十八歳弱、村二十人二十八歳強デアアル、更ニ之ヲ最后ニ擧ケタル兒ノ男女性ニ從テ母体ノ平均年齢ヲ驗スルニ、既産婦ニ於テハ男兒ヲ擧ケタル者十六人ニテ二十三歳強、女兒十六人二十四歳強、男女性不明二十人三十歳強ナルモ、經産婦ノミニテハ男兒六人二十六歳弱、女兒八人二十七歳強、男女性不明二十人三十歳強デアリマス、

癌腫ニ就テハB表ノ如ク既産婦總數九十人ノ終産平均年齢ハ三十一歳強ニシテ最早十七歳、最遲四十三歳ナルモ單ニ經産婦八十二人ニ就テハ平均三十二歳強ニシテ最早十九歳最遲四十三歳デアリマス、

之ヲ市町村ノ區別ハ、既産婦ニ於テハ市二十六人二十八歳半、町二十四人三十二歳弱、村四十八人三十三歳弱ニテ、經産婦ノミニ於テハ市二十二三人三十歳弱、町二十四人三十二歳弱、村三十六人三十四歳デアアル、且ツ又男女兒性ニ

就テハ、既産婦ニ於テ男兒二十五人三十歲弱、女兒二十六人二十九歲強、性不明三十九人三十三歲強ナルモ、經産婦ノミニ於テハ男兒二十人三十二歲弱、女二十三人三十一歲弱、不明三十九人三十三歲強デアリマス、

終産ノ平均年齢此ノ如クナルモ、茲ニ意ヲ拂フベキ要件ハ兩病ニ於ケル平均年齢ノ差異デアリマス、即チ筋腫ニテハ既産總數五十二人二十六歲強、經産二十四人二十九歲弱ナルモ、癌腫ニ於テハ既産總數九十人三十一歲強、經産八十二人三十二歲強ニシテ、兩者比較上癌腫患者ニ於テハ筋腫患者ヨリモ平均既産婦ニ於テ五年經産婦ニ於テ三年間以上凡テ高年ニ於テ最モ終ノ分娩ヲ營ミタルコトヲ知リマス、兩病發病年限ハ后程項ヲ改メテ申シマスルガ、單ニ今申セシ點ノミニ就テモ筋腫ハ癌腫ヨリモヨリ若齡ニ於テ發生シ且ツヨリ早ク其生殖機能ノ障害又ハ廢絶ヲ來スモノナルコトヲ窺フニ足ルト思ヒマス、

終ニ兩病患者ト流早産トノ關係ニ就テハ亦一顧ノ値アルモ、奈何セン我等ハ此事ニ就テハ確實ナル材料ニ乏シキヲ憾ト致シマス、此兩病ノ既産婦ニ就テ初産ヨリ終産ニ至ル各毎回ニ於テ、其妊娠ハ如何ニ持續セシカ分娩ハ如何ナル經過ヲ取リシカラ觀、又特ニ兩病發生後ニ於ケル産科的關係ガ如何ナル状態ノ下ニ如何ニ行ハル、カラ察スルコトガ出來タナラバ實ニ有要ナルコト、思ヒマス、今第五表ニ於テ括弧中數回ノ流早産ヲ示スモノハ是レ唯終産ノミニ於ケル妊娠中絶ノ一端ニ過キマセヌ、即チ筋腫ニ於テハ既産五十二回中流早産五回ニシテ、之ヲ細別スレバ市流産(三ヶ月)一回早産(七ヶ月)一回、町早産(七ヶ月)一回、村流産(三ヶ月)一回双胎早産(七ヶ月)一回、又癌腫ニ於テハ既産九十回中流産四回ニシテ之ヲ細別スレハ市流産(三ヶ月)一回、町二回(四ヶ月及ニヶ月)、村一回(六ヶ月)デアリマス、而シテ癌腫ニ於テハ今述タル如ク終産ニ於テ早産ヲ見ザルノミナラズ初産ニ於テ流早産一回ダニ無シト雖、筋腫ニ於テハ其五回中市町ノ早産二回(各七ヶ月)ハ實ニ其初産時ニ屬セルモノデアリマス、

而シテ Winkkel 氏ハ癌腫ニ就キ實ニ左ノ如キ傾聽スベキコトヲ云ツテ居リマス、曰ク甚ダ長時ヲ要セシ分娩又ハ人  
 工的補助ヲ待テ終結ヲ告ゲン難産ハ通常ノ婦人ニ於ケルヨリモ子宮癌腫ニ罹リタル婦人ニ於テヨリ屢之ヲ見ル、加  
 之妊娠ノ中絶殊ニ其前半期ニ於テ中絶スル者ハ子宮癌腫ヲ患ヘタルモノニ於テ多シ、故ニ其妊娠ト分娩トノ兩機ノ  
 ミニテハ子宮癌腫ヲ患フルノ素因タルニハ不充分ナリト雖、瀕々分娩セル者並ニ屢難産セル者ハ多ク分娩セザル者  
 又ハ全ク爲ザル者ニ比シテ高度ノ罹病數ヲ顯ハスト、

尙兩病各百例中、市町村ニ於ケル未産、初産、經産婦ノ區別ハ表ニ就テ御覽被下タシ、

### 第六 分娩回数及産兒

第六表ニ於ケル、兩病ニ於ケル産兒男女數及既産婦ト分娩回数トノ關係表ニ就テ、先ツ豫メ相參照セラレンコトヲ  
 希望致シテ置キマス、

第一兩病ニ於ケル既産婦ト分娩回数トノ關係ニ就キマシテハ、A 表ニ示ス如ク、子宮筋腫ニ於テハ其分娩回数唯一回  
 ナリシ者市町村合計十八人、二回十四人、三回五人、四回四人、五回七人、六回一人、七回三人ニシテ、之カ%數  
 ハ一回十八人ニテ三十四、六%二回乃至五回三十人ニテ五十七、六%六回乃至七回四人ニテ七、六%デアリマス、又癌  
 腫ニ於テハ一回八人、二回十八人、三回十八人、四回十七人、五回十三人、六回五人、七回八人、八回七人、九回二  
 人、十回一人、十二回一人ニシテ、之カ%數ハ一回八人ニテ八、八%、二回乃至五回五十八人ニテ六十四、四%六回  
 乃至十回二十三人ニテ二十五、五%十二回一人ニテ一、一%デアリマス(故ニ六回乃至十二回二十四人ニテ二十六、六  
 %)、即チ子宮筋腫ニ於テハ第一回舉兒ノ者最多ク二、三、四回等漸次遞減スルモ、癌腫ニ於テハ舉兒三回最多數ニシ  
 テ四、五之ニ次キ二、一回更ニ之ニ次テ居リマス、此事ハ後ニ掲クル Winkkel 及 Sussenroth 兩氏ノ統計ニ能ク一致シテ

居リ、筋腫ニテハ第一回不妊ニ止ル者亦最多ク二回以上ハ逐次遞減シ、癌腫ニテハ唯 Winkel 氏ノ統計ノミニシテ各回ニ就テハ一、二、三等並記スル所ナキモ一回十三人、二回乃至五回五十三人、六回乃至二十六回六十四人トアルニヨリ觀レバ亦一回舉兒ノ少ク、經産婦ニ於テ多イト云フコトノ一端ガ分ラウト思ヒマス、

ソコデ B 表ニ於ケル、産兒男女數ノ示ス如ク、筋腫ニ於テハ其産兒男七十二、女六十三合計百三十五人ニシテ、癌腫ニ於テハ男二百三、女百八十九合計三百九十二人デアアル故ニ、今兩病ニ於ケル既産婦一人ノ平均舉兒數ハ幾許ナリヤト云フニ、筋腫ニ於テハ母五十二人ニ對スル兒百三十五人ナルヲ以テ一母平均舉兒數ハ二、五九弱ニシテ、癌腫ニ於テハ母九十人ニ對スル兒三百九十二人ナルヲ以テ即チ四、三五兒トナリマス、若シ夫レ未産既産ヲ問ハズ之ヲ各全例百人ニ平均スレバ筋腫ニテハ一母漸ク一、三九兒トナルニ反シテ癌腫ニテハ二、九二兒トナリマス、

此患婦ト分娩數ノ關係ハ筋腫ニ於テハ夙ニ Winkel 及 Süsserott 兩氏ニヨリテ報告セラレテアリマス、Winkel 氏ノ例ハ四十六人中産婦三十七人ニシテ兒ヲ舉クルコト百十四、Süsserott 氏ノ例ハ其ノ六十二人悉ク産婦ニシテ兒ヲ舉クルコト百六十二、即チ合計九十九産婦ニ就テ兒數二百七十六人ナル故ニ一母平均舉兒數ハ二、七兒デアリマス、

	全患婦	既産婦	産兒數
Winkel	46.	37	114
Süsserott	62.	62	162

更ニ之ヲ詳シク申シマスレバ

I II III IV V VI VII IX XI XIII

Winckel	99	{ 10 6 8 6 2 3 1 1	1	1
Susserott	37	{ 16 18 13 6 4 2 1 1	1	1
		41.6% 53=48.3%	9=1.2%	

ニテアリマスガ、今 Sachsen ニ於ケル一汎婦人中其産婦ニ就テノ分娩回数ナル%數ト比較スルキハ實ニ左ノ通デアリマス、

	I	II-V	VI-
Winckel	41.6%	48.3%	1.2%
Susserott	34.6%	57.6%	7.6%
Ogawa	22.7%	55.2%	22.1%

即チ其%數ハ Winckel Susserott 兩氏及本報告ニ於テハ二回一五回ハ一回ヨリモ多ク、六回以上ハ急ニ減少スルニ係ラズ、Sachsen ニ於テハ二回一五回ハ一回ノ二倍ニシテ六回以上ハ其多數ナル一回ト殆ント伯仲ノ間ニ在ル次第デアリマス、之ニテモ筋腫患者ハ通常婦人ニ於ケル分娩力ニ比シテ如何ニ早期ニ其機能障害ヲ來スカバ分ラウト思ヒマス、

尙又 Schröder 氏ハ筋腫患者六百四人中正期ノ分娩ヲ營メル三百七十六婦ニ就テ合計千二百九十八人ノ兒ヲ見タル故一母平均三、四五兒ノ割合デアリマスガ、若シ六百四人全体ニ平均スレバ二、一四兒トナリ、West 氏ニ據レバ四十三人中産婦三十六人ニシテ六十一兒ヲ擧ケ其中二十人ハ唯一兒ニ止レリト云フ故ニ一母平均一、七兒ナルモ全体ニ配スレハ一、四兒トナリ、Rohrig 氏ニ據レバ百六人中産婦七十五人ニシテ百九十兒ヲ擧ケ其中四十人ハ唯一兒ニ止



レリト云フ故ニ一母平均二、五三兒ニシテ全体ニ配スレバ、一八兒トナリマス、即チ

	全患婦	既産婦	産兒數	一母平均 兒數	患者 平均 兒數
Schroder	604	376	1298	3.45	2.14
West	43	36	61	1.7	1.4
Rohrig	106	75	190	2.53	1.8
Ogawa	100	52	135	2.59	1.35
合計	853	539	1684	各平均2.57	各平均1.67

ナルヲ以テ八百五十三人ナル患婦全數ニ對シテノ平均舉兒數ハ、一、六七兒ニシテ其中既産婦五百二十九人ニ對スル平均數ハ實ニ二、五七兒デアリマス、

次ニ癌腫患者ニ於テ其分娩數トノ關係ニ就テ泰西ニ於ケル跡ヲ見マスルニ、サキ程申シタル如ク Winkel 氏ハ百三十八人中一回ニ止マルモノ十三人ニシテ十%二回一五回五十三人ニシテ四十、八%六回一二十六回六十四人ニシテ四十九、二%ナリシロトラ報告シテ居リマス、故ニ今之ヲ本報告ト對照スレバ、

Winkel	130	I	II-V	VI-XXVI
		13=10.0%	53=40.8%	64=49.2%
Ogawa	100	I	II-V	VI-XII
		8=8.8%	58=64.4%	24=26.6%

デアリマス、

而シテ West, Tanner, Scanzoni, Lever, Beigel, Lothar, Meyer, Gussow, 氏等ニ據ルハ合計五百八十八人ニテ二千

二十五兒ヲ舉タルヲ以テ一母平均舉兒數ハ五、一兒ニ及ンデ居リマス、加之此ノ癌腫患者ノ平均分娩數ニ就テハ尙  
 West 氏ハ六、八(正期分娩五、六流産一、二兒)、Scanzoni 氏ハ七、〇一 Tanner 氏ハ六、五 Siebley 氏ハ五、二 Lebeck 氏  
 ハ三、九 Beigel 氏ハ五、九 Lever 氏ハ五、七五 Lothar Meyer 氏ハ五、五 Winkel 氏ハ五、六 Schröder 氏ハ五、〇二  
 Gussorow 氏ハ四、五柳氏ハ四、四五山田氏ハ三、八兒ヲ各算ヘテ居リマス、

平均分娩數		平均分娩數	
West--	3.1	Lothar Meyer	5.5
Gussorow		Winkel	5.6
West	6.8	Schröder	5.02
Scanzoni	7.01	Gussorow	4.5
Tanner	6.5	Hohneier	5.2
Siebley	5.2	Sakaki	4.45
Lebeck	3.9	Yamada	3.8
Beizel	5.9	Ogawa	4.35
Lever	5.75		
		各平均	5.28

故ニ今此等總テノ平均舉兒數ハ五、二八兒トナリマス、

然ルニ平均一婦人ガ通常、兒ヲ舉クル數ハ Preussen ニ於テハ四、六 Sachsen ニ於テハ四、五 Frankreich ニ於テハ三、四  
 England ニ於テハ四、二日本ニ於テハ少數ノ統計ナルモ山田氏ニ據レバ四、〇八兒ナル故、之カ平均ハ四、一五兒デア

リマス、ヨシ今一步ヲ譲リ此四、一五ナル數ヲ以テ通常一汎産婦ニ於ケル平均舉兒數ナリト定ムルキハ筋腫ノ二、五七兒ハ之ニ及バスシテ癌腫ノ五、二九兒ハ之ニ過キテ居リマス、即チ後來子宮癌腫ニナリシ所ノ婦人ノ妊孕力ハ普通健康婦人ノ妊孕力ニ比シテ大ナルコトハ爭フベカラザル事實ニシテ、之ニ反シテ後來子宮筋腫ニナリシ所ノ婦人ノ妊孕力ハ普通健康婦人ノ妊孕力ニ比シテ小ナルコトハ從テ亦爭フベカラザル事實デアリマス、換言スレバ子宮癌腫ハ子宮筋腫ヨリモ經産婦殊ニ多産婦ニ於テ多ク發生スト云フコトガ出來マス、其レ故ニ若シ子宮過度ノ生理的作用ハ癌腫ノ發生ヲ促スト云フ刺戟說ヲ以テ其或一因ト看做シ得ルナラバ雷ニ結婚後ノ婦人殊ニ分娩後ノ婦人ニ於テ多キノミナラズ、單ニ此産兒平均數ノ多キ點ノミヨリ觀ルモ或ハ刺戟說ニ贊同ヲ表スルハ絶待的ニ不可ナルコトニ非ザルベシト思ハレマス、彼ノ娼妓罹病數ノ少キヲ以テ刺戟說ヲ非認スル如キハ深ク意ヲ留ムルニ足ラヌ、尤モ癌腫ナルモノハ今日尙不幸ニシテ黴菌ニ因ルカ毒素ニ因ルカ或ハ單ニ一種ノ機械的作用ニ基クニ過キザルカ全ク不明ナリト雖、恐クハ屢來ル所ノ分娩ナルモノハ夜令直接ノ元因ナラズトモ少ナクトモ此等ノ作用ヲシテ多少容易占據セシムル所ノ一ノ誘因ナリト我等ハ信スルノデアリマス、

尙第六表 Bニ就テ其男女兒ノ市町村別ハ凡テ畧シマスカラ表ニ就テ御覽ヲ願ヒマス、只此 B表ニ就テ一言申添度ト思フハ其百三十五兒及三百九十二兒ナル兩病ノ産兒男女數ノ市町村細別ハ、例者子宮筋腫ニ於テハ男一兒ヲ舉ケタル者市ニ於テ九回（即チ男兒九人）、女一兒ヲ舉ケタル者六回（即チ女兒六人）、又男二兒ヲ舉ケタル者二回（即チ男兒數四人）、女二兒ヲ舉ケタル者三回（即チ女兒數六人）、乃至女五兒ヲ舉ケタル者一回（即チ女兒數五人）等ノ如キ意ヲ表ハスモノニシテ、此等ノ患者中同一人ニシテ男女多クノ兒ヲ舉ケタル者アルハ固ヨリ當然ノコトデアツテ強チ其産兒ガ男ナラ男、女ナラ女丈ケ單ニ一方ニ偏性シタト云フ譯デハナイノデアリマス、

且又此表ニ於テハ産兒ノ男女性皆悉ク判明セルニ係ラズ、先ノ終産表ニ於テ兒性ノ不明ナル者アリシハ或ハ前後矛盾ノ統計ニ非ズヤトノ御疑モアラシク、之ハ患者經過錄上凡テ分娩何回其中男兒何人女兒何人ト記載セラル、モ、其第何回分娩ハ男性ナリヤ女性ナリシヤノ如キ毎回ノコトニ至テハ一々記載スル所ナキ者アルガ爲ニ基ク結果デアリマス、(以下次號)

私ハ本誌第三十三號(本年四月十八日發行)ニ於テ「兩側性卵巢囊腫ニ妊娠ヲ兼タル者ニ開腹術ヲ施シタル一例」ニ就テ聊カ報告スル所アリシカ患婦退院后ノ容態ニ付テハ殆ンド聞ク所無カツタ、妊娠ハ果シテ平穩ニ持續セシカ經過中流早産ノ不幸ニ遭遇セザリシカ、若シ事無ク分娩期ニ及ヘリトスルモ陣痛ノ模様ハイカン娩出ノ難易ハイカン産褥ノ狀ハイカンナド、時々小川先生始メ我等同僚ノ口ニ上ルコトアリシガ、此頃幸ニ當時ノ患婦自身ニ逢ヒ直接聞クノ機會ヲ得タ、

彼ハ退院後ノ疎濶ヲ謝シ欣々然トシテ其健カナル面ニ笑ヲ湛エテ曰ク、早ヤ一年ノ昔ニナリマスガ手術ヲ受ケタルハ丁度十一月ノ二十八日退院致セシハ翌臘月二十一日デアリマシタ、家ニ歸リテ後モ暫クハ入院ノ時ト同シク安臥シテ居リシモ新玉ノ年ト共ニ床ヲ拂ヒ、嬉シクモ起坐進退共ニ意ノ如クナリシガ同月十五日初テ外出致シマシタ、其後ハ怠ラズ成ルベク滋養物ヲ取ルコトニツトメ身ノ補ヲ助ケツ、藥用ハ爲サザリシガ、月日ノ立ツトトモニ漸々腹部ハ大キクナリ乳暈ノ着色亦著シクナリマサリシモ、一向惡阻様ノコトモナク食ハ進ミ氣ハ勝グレ軀ニ力モ増シテ家事ノコトナド何吳トナク手傳ヘツ、過キマシタ、然ルニコ、二月滿チ六月二日黄昏時ヨリ少シク腹痛ヲ催シ八時頃ヨリハ追々強ク成リ發作性ニ覺エシガ、翌曉四時頃水ヲ漏ラシ一時間餘リ經

テ安ク女兒ヲ産ミ落セシガ正ニ五時ニモヤナリケン、兒ハ頭ヨリ出デタルモ親子トモフサガリ(人事不省及窒息)モセズ、其后身体ニ差シタル異常モナカリシガ只降り物ハ稍久シク續キ初ノ程ハ血色ナリシモ漸次薄ラギ五  
 十日斗ニテ全ク降りズナリヌ、又産后ノ月經ハ去月一日初メテ來リ二日間ツゞキ此月初マタ潮來致セシモ其量  
 多シトモ覺エズ是迄トハ寧ロ少ナキ様覺エマシタ、兒ハ今他ニ伴ハレテ在ラザルモ生來健カニシテ其愛シサ云  
 ハン方ナシ、小川先生始メ皆サンニ吳々モ宜敷申上ゲテ被下!

彼ガ物語ハ此ノ如クナリキ、余ハ尙詳シク聞キ糺ス所アラント欲セシモサル場所ノコト、テ其一汎ニ止メ深ク  
 モ聞カナカツタ、思フニ彼ハ産褥時ノ排泄稍長ク持續セシト雖術後ノ經過頗ル佳良ニシテ遂ニノルマルノ分  
 娩ヲ營ミタルモノト思ヒマス、殊ニ最終月經ハ八月二十五日ナリシヲ以テ推測スレバ翌年六月一日ガスナハチ  
 分娩豫定日デアル故ニ豫定日ニ遅ル、僅ニ二日實ニ正期ニ至ルマテ他ニ何等ノ障害ヲモ起スコトナク正規的分  
 娩ヲ營ミタルモノト思ヒマス、(八田生)

統計ハ極言スレバ絶体的眞理ニシテ又絶体的非眞理ナリ而モ  
 之カ比較ニ觀之カ中廬ヲ尋ヌ亦常道ヲ得ルニ庶幾ンカ

\* \* \* \* \*

I

職業

子 宮 筋 腫			子 宮 癌 腫		
農	33	煙 草	農	36	荒 物
無職.不明	10	笠	無職.不明	9	船 業
{娼妓.志望者	6	機 職 工	{吳服.古物	3	炭 工
官 吏	4	會 社 員	米 穀		
貸坐敷	3	漁 業 工	賣 藥 吏		
料理屋		1	官 族	2	羽 二 重 館 宿 屋 腐 立 造 冶 挽 子 計
仕立屋			僧 侶 家 族		
羽 二 重	日 稼				
僧侶家族	材 木	醫 士	2	豆 仕 酒 鍛 木	子 計
辯護士	紡 糸 商 業	質 料 理 屋 師 草 屋			
{荒四醬	2	撚 仲 漆 肥	湯 塗 煙 魚	(兩病各百例)	子 計
藝 妓 結	2	縮 軍 下 雜 雜	{教員.家族		
女 髮 藥		2	小 間 物 子		
賣 鍛 冶 物					
小 間 物					
質					

(原著及實驗)

II

初 經 年 齡	
子 宮 筋 腫	子 宮 癌 腫
初經 $100 = 16$ 强 (13-22) <sup>最早 最遲</sup> <small>人 オ</small>	
初經 $97 = 16$ 弱 (14-20) <sup>最早 最遲</sup> <small>人 オ</small> (年齡不明 3ヲ除ク)	
市	39 = 16 强 (14-22)
町	22 = 16 弱 (13-17)
村	39 = 17 弱 (13-20)
市	30 = 16 弱 (15-18)
町	24 = 16 弱 (14-18)
村	43 = 16 强 (14-20)

年齡不明 3 { 町 2  
村 1

III

結 婚 年 齡	
子 宮 筋 腫	子 宮 癌 腫
100 { 未婚 11(11%) <small>人</small> 既婚 89(89%) = 18 强 (14-29)	
100 { 未婚 2(2%) <small>人</small> 既婚 98(98%) 97 = 18 弱 (14-32) (年齡不明 1ヲ除ク)	
市	31 = 19 弱 (15-29)
町	20 = 18 弱 (14-23)
村	38 = 18 强 (14-27)
市	30 = 18 弱 (15-25)
町	26 = 18 弱 (14-21)
村	41 = 18 弱 (14-32)

未婚 11 { 市 8  
町 2  
村 1 } 未婚 2-村 2  
既婚不明 1-村 1

（原著及實驗）

IV. A

初產 子宮筋腫

市	初產	男兒	女兒	經產	男兒	女兒	性不明
17				3	1	1	1
18	2	2		3	1	1	1
19	3	2	1	1	1		
21	1 (7m)		1 (7m)	1	1		
22				1			1
24	1	1					
26	1		1				
計合	8	5	3	9	4	2	3
町	初	男	女	經	男	女	不
16				1	1		
18				1	1		
19	2	1	1				
20	1 (7m)		1 (7m)				
21				2			2
22	1		1	1			1
34	1	1					
合計	5	2	3	5	2		3
村	初	男	女	經	男	女	不
17				4	2	1	1
19				3	2	1	
20	1	1		3	1	1	1
21	2	1	1	5	4		1
22				1			1
23	2	1	1	1			1
25				2	1		1
27				1		1	
合計	5	3	2	20	10	4	6

總數 100 { 未產婦 48人 最早 最遲  
          { 既產婦 52人 = 21才弱 (16-34)

{ 未產 48 } 市 39 { 未產 22  
          { 既產 52 } 町 22 { 初產 8  
          { 初產 18 } 村 39 { 經產 9  
          { 經產 34 }            { 未產 12  
                                  { 初產 5  
                                  { 經產 14  
                                  { 未產 5  
                                  { 初產 5  
                                  { 經產 20

初產婦 18 = 21強 (18-34)

市 8 = 20半 (18-26)  
町 5 = 23弱 (19-34)  
村 5 = 22弱 (20-23)

男兒 10 = 21半 (18-34)  
女兒 8 = 21強 (19-26)

經產婦 34 = 20 (16-27)

市 9 = 19 (17-22)  
町 5 = 20弱 (16-22)  
村 20 = 21弱 (17-27)

男兒 16 = 19半 (16-25)  
女兒 6 = 20弱 (17-27)  
性不明 12 = 21弱 (17-25)

市 17 = 20弱 (17-26)  
町 10 = 21強 (16-34)  
村 25 = 21弱 (17-27)

男女兒合計  
男 26 = 20強 (16-34)  
女 14 = 21弱 (17-27)  
不明 12 = 21弱 (17-25)

早產 2 { 市 1 (7m)  
          { 町 1 (7m)



IV. B

初產子宮癌腫

市	初產	男兒	女兒	經產	男兒	女兒	性不明
17				2		1	1
18	1	1		6	1	3	2
19	1		1	5	3	1	1
20	1		1	3	2	1	
21				2	1		1
22				1		1	
23				1		1	
26				1	1		
29	1	1		1		1	
合計	4	2	2	22	8	9	5
町	初	男	女	經	男	女	不
17				1	1		
18				3	1		2
19				5	2		3
20				7	3	1	3
21				3	1	1	1
23				2		2	
24				1			1
25				1	1		
27				1	1		
合計				24	10	4	10
村	初	男	女	經	男	女	不
17	1	1		4	2	1	1
18				2	2		
19	1		1	8	4	2	2
20	1	1		8	2	1	5
21				5	2		3
22				3	3		
24				1	1		
25	1	1		2		1	1
26				1			1
27				1			1
33				1			1
合計	4	3	1	36	16	5	15

總數 100 人 { 未產婦 10 人 最早 最遲 (17-33)  
 既產婦 90 人 才

{ 未產 10 人 } 市 30 { 未產 4  
 既產 90 人 } 町 26 { 初產 4  
 { 初產 18 人 } 村 44 { 未產 22  
 經產 82 人 } { 未產 2  
 經產 82 人 } { 未產 24  
 初產 4  
 經產 36

初產婦 8 = 21 弱 (17-29)  
 市 4 = 21 半 (18-29)  
 町  
 村 4 = 20 強 (17-25)

男兒 5 = 22 弱 (17-29)  
 女兒 3 = 19 強 (19-20)

經產婦 82 = 20 強 (17-33)  
 市 22 = 20 弱 (17-29)  
 町 24 = 20 強 (17-27)  
 村 36 = 21 弱 (17-33)

男兒 34 = 20 強 (17-27)  
 女兒 18 = 21 弱 (17-29)  
 性不明 30 = 21 弱 (17-33)

市 26 = 20 強 (17-29)  
 町 24 = 20 強 (17-27)  
 村 40 = 21 弱 (17-33)

男女兒合計 男 39 = 20 強 (17-29)  
 女 21 = 20 強 (17-29)  
 不明 30 = 21 弱 (17-33)

(原著及實驗)

V. A

終 產

子 宮 筋 腫													
年齡	市	男兒	女兒	不明	町	男	女	不	村	男	女	不	合計
18	2	2											2
19	4	3	1		2	1	1						6
20					1(7m)			1(7m)	1	1			2
21	1(7m)		1(7m)						3	1	2		4
22	1			1	1		1		1		1		3
23					1			1	6	1	4	1	7
24	1	1			1	1			(双7m) 1		1	(双7m)	3
25					1			1	1	1			2
26	1		1						2	1		1	3
27									2			2	2
28	1			1					1	1			2
31	1			1									1
32					1				2	1		1	3
33	1(3m)			1(3m)				1	2		1	1	3
34	1		1		1	1							2
35	2		1	1	1			1					3
37	1			1					1			1	2
38									2(3m)			2(3m)	2
合計	17	6	5	6	10	3	2	5	25	7	9	9	52

未產 48	}	市 { 未產 22	}	町 { 未 12	}	村 { 未 14
既產 52		市 { 初產 8		町 { 初 5		村 { 初 5
人		經產 9	22	經 5	39	經 20

流早產 5	}	市 { 流產 1(3m)
		町 { 早產 1(7m)
		村 { 流 1(3m)
		雙早 1(7m)

總計 52人 = 26才強 (18-38)
市 17 = 26弱 (18-37)
町 10 = 25強 (19-35)
村 25 = 27弱 (20-38)

初產 18人
經產 34 = 29才弱 (19-38)
市 { 初 8
町 { 初 5
村 { 初 5
經 20 = 28強 (21-38)
市 { 經 9 = 30強 (19-37)
町 { 經 5 = 28弱 (23-35)

男兒 16 = 23強 (18-34)
女兒 16 = 24強 (19-35)
不明 20 = 30強 (20-38)

男 { 初 10
女 { 初 8
不 { 初 8 = 27強 (21-34)
經 6 = 26弱 (19-32)
無 8 = 30強 (22-38)

(原著及實驗)

V. B

終 產

年齡	宮 子 癌 腫												合計
	市	男兒	女兒	不明	町	男	女	不	村	男	女	不	
17									1	1			1
18	1	1											1
19	3		2	1	1	1			1		1		5
20	1		1						1	1			2
21	1			1	1		1						2
22					1			1					1
23					1		1						1
25	2	2							2	1		1	4
26	2	1	1						2	1	1		4
27	1			1	1			1	4	3		1(6m)	6
28	2	1	1		3		2	1	2			2	7
29	2	1	1		1			1	1		1		4
30	1		1										1
31	1(3m)			1(3m)	1			1	1		1		3
32	3	1	2		4		1	3	3	1		2	10
33	1	1							4		2	2	5
34					1	1			2			2	3
35					2			2(4m)	2			2	4
36	1		1		1	1			1		1		3
37									1			1	1
38	2		2						3	2	1		5
39	1			1	2		1	1	2			2	5
40					1	1			3			3	4
41	1	1			3			3(2m)	1	1			5
42									2			2	2
43									1	1			1
合計	26	9	12	5	24	4	6	14	40	12	8	20	90

未産 10 } 市 30 { 未 4  
既産 90 } 初 4 町 26 { 未 2  
經 22 } 經 24 村 44 { 未 4  
          }          }          } 初 4  
          }          }          } 經 36

流産 4 { 市一流産 1 (3m)  
町一流産 2 (2m)  
村一流産 1 (6m)

總計 90人 = 31才強 (17-43)

市	26 = 28半 (18-41)
町	24 = 32弱 (19-41)
村	40 = 33弱 (17-43)

初産 8人  
經産 82 = 32才強 (19-43)

市	{ 初 4 經 22 = 30弱 (19-41)
町	{ 初 無 經 24 = 32弱 (19-41)
村	{ 初 4 經 36 = 34 (25-43)

男兒	25 = 30弱 (17-43)
女兒	26 = 29強 (19-38)
不明	39 = 33強 (19-42)

男	{ 初 5 經 20 = 32弱 (19-43)
女	{ 初 3 經 23 = 31弱 (19-39)
不	{ 初 無 經 39 = 33強 (19-42)

(原著及實驗)

VI. A

兩病ニ於ケル既産婦ト分娩回数トノ關係

子宮筋腫	分娩回数	1回	2	3	4	5	6	7	合計				
	市	8(早産1)	3(流産1)	2		2	1	1	17				
	町	5(早1)	2(早1)		2	1			10				
	村	5	9(双七月産ケ1)	3	2	4		2	25				
	合計	18	14	5	4	7	1	3	52				
	%	34.6%	26.9%	9.6%	7.6%	13.4%	1.9%	5.7%					
			30=57.6%			4=7.6%							
産兒 { 男 72 女 63 } = 135兒		52母:135兒 ∴ 1母平均舉兒=2.59兒											
但シ 100人 (未産) = 平均スレハ 1母 = 1.39兒													
子宮癌腫	分娩回数	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	12	合計
	市	4	5	5	7(流1)	1	1	2	1				26
	町		4	7	3(流1)	4(流1)	2	2		1(流1)	1(早1)		24
	村	4	1	6	7	8	2	4	6	1		1	40
	合計	8	10	18	17	13	5	8	7	2	1	1	90
	%	8.8%	11.1%	20.0%	18.8%	14.4%	5.5%	8.8%	7.7%	2.2%	1.1%	1.1%	
			58=64.4%				23=25.5%			24=26.6%			
産兒 { 男 203 女 189 } = 392兒		90母:392兒 ∴ 1母平均舉兒=4.35兒											
但シ 100人 (未産) = 平均スレハ 1母 = 3.92兒													

IV. B

兩病ニ於ケル産兒男女數(既産婦ト分娩回数トノ關係表ヲ參照セヨ)

兒數		1回	2	3	5	合計					
子宮筋腫	市	男	9	4(2)	9(3)		22	} 135兒			
		女	6	6(3)	3(1)	5(1)	20				
	町	男	4	2(1)	6(2)		12				
		女	5	2(1)	3(1)		10				
	村	男	9	12(6)	12(4)	5(1)	38				
		女	11	8(4)	9(3)	5(1)	33				
市町村合計			1	2	3	5	合計				
男		22	18	27	5	72	} 135				
女		22	16	15	10	63					

  

兒數		1	2	3	4	5	6	7	8	合計	
子宮癌腫	市	男	9	10(5)	9(3)	12(3)		6(1)		46	
		女	7	14(7)	15(5)	8(2)				44	
	町	男	7	20(10)	12(4)	4(1)			7(1)	50	
		女	9	14(7)	6(2)	12(3)	5(1)	6(1)		52	
	村	男	7	22(11)	39(13)	8(2)	10(2)	6(1)	7(1)	8(1)	107
		女	12	18(9)	15(5)	16(4)	20(4)	12(2)			93
市町村合計			1	2	3	4	5	6	7	8	合計
男		23	52	60	24	10	12	14	8	203	} 392
女		28	46	36	36	25	18			189	

(原著及實驗)